実績報告書別紙（那須平成の森基金ホームページ等への掲載用）

助成対象者名 （団体名又は個人名）	NPO 法人グラウンドワーク西鬼怒 フクロウ営巣ネットワークプロジェクト
所在地	〒329-1102 栃木県宇都宮市白沢町 2411 番地 TEL028-673-9766 FAX028-673-9766
助成対象者のプロフィール	団体の場合、設立経緯、目的等（100 字程度） NPO 法人グラウンドワーク西鬼怒は、西鬼怒川周辺を活動範囲とする特定非営利活動法人です。 地域の自然環境の維持管理作業や、豊かな農村の自然を生かした環境教育活動などに取り組んでいます。
活動名	野生下におけるフクロウ（*Strix uralensis*）の繁殖行動調査及び天然木を利用したフクロウの営巣環境を創出する技法の研究
活動分野	調査研究・モニタリングの推進 生物多様性等に関するモニタリング活動
助成金額	59,886 円
活動の背景と目的	人間の生活環境の変化が与える里山の荒廃や減少により野生フクロウが安心して子育てできる環境が失われてきています。 そこで私たちは、フクロウ営巣ネットワークプロジェクトとして農村地域の生態系の保全、再生を目的に巣箱によるフクロウの営巣環境の創出を行っています。
活動の概要	①フクロウの繁殖行動の観察（巣箱内調査とルートセンサス） 那須平成の森下部ゾーン余笹川東側の新たな天然木捜索と周辺の観察を実施しました。 今回の結果としては、再生可能な天然木は発見できませんでした。 ②設置済みの巣箱等メンテナンス作業 平成 28 年 11 月 23 日にイベントにて作成し、上部ゾーンに設置したフクロウの巣箱確認とメンテナンス作業及び周辺の観察を実施しました。 巣箱は硫黄系のガスなどの影響で屋根が破損していたため強化と補修作業を実施。巣箱内の確認では利用の痕跡は、認められませんでした。 ③天然木利用促進のための計画・行動 再生作業を実施した天然木の現地点検をすると

	共に現時点での課題の洗い出しと他地域での活用方法などの可能性を話し合いました。 　また、10 月に確認した際、台風によるものと思われる穴埋めの崩壊が確認できたため、12 月に再度再生作業を実施しました。 ④環境教育プログラム開発のための調査・研究 　1 月 16 日に設置した自動撮影機により再生した天然木利用の有無の解析を続けると共に作業後からどの程度の維持が可能になるかを継続的に観測していく。 　また、保護活動に係わる環境教育プログラムの開発ということで宇都宮大学ゆうゆうフクロウネットワークプロジェクトと連携し、本事業で得られた結果などを踏まえてプログラム化したものを他地域にて企画、開催しました。
活動の結果と効果	今回の活動の結果として、昨年確認できなかった下部ゾーン模範牧場側エリアでの探索を実施したが、やはり那須平成の森の天然木の洞はそのほとんどが小口径のものか、底が抜けてしまっており野生フクロウの繁殖に適した木が見当たらなかった。 　また、11 月に実施した上部ゾーンに設置している巣箱の確認をおこなった。確認時には巣箱の金具が腐食しており屋根が破損していた。巣箱内は繁殖が行われた様子は見受けられなかった。周辺は源泉があるなど硫黄系のガスが発生しやすい環境であるため金属が腐ってしまったものと思われる。温泉地などのエリアでの巣箱は鉄などの金属を使ったものを極力避けるか、通常より腐食を防ぐ対策の強化が必要であるということが分かった。 　昨年の天然木再生工法は、台風による影響で崩壊してしまったため新たな方法で穴埋め作業を実施した。 　人工物を使わずに現地にある枯損木や倒木で作り上げる工法としては非常に頑丈なものが構築できた。 　本助成事業の 2 年間を通じて分かったことは、以下の 3 点であった。 　１つめは、想定していたよりも再生可能な天然木が森には少ないということ。これは付近の似たような里山林でも同じである可能性が高いため、

	周辺の探索を進めてみる予定。 ２つめは、地形や地域の特徴によって巣箱の設置条件を細かく調整する必要があるということ。周辺の環境（硫黄系のガスや積雪量など）により巣箱が受ける影響が大きいということが分かった。この経験は他地域での巣箱掛けに多いに活用できる経験となった。 ３つめは、天然木の穴埋め作業の大まかな工法のコツが分かったこと。当初想定していたよりも工事の難易度が高かったが、周囲の枯損木等のみで穴を埋めることは達成できた。今後はより効率的な作業方法を考察していく予定。 今後は設置した自動撮影機により３月から６月の繁殖期に利用の有無を調査すると共に作業後からどの程度の維持が可能になるかを継続的に観測していく。 また、保護活動に係わる環境教育プログラムの開発ということで宇都宮大学ゆうゆうフクロウネットワークプロジェクトと連携し、本事業で得られた結果などを踏まえてプログラム化したものを他地域にて企画、開催しておりとても良い結果を創出している。 一例として、巣箱掛けを行う際に昨年度に実施した本事業のイベントをモデルに日本における野生フクロウの現状や当法人の活動を参加者へ理解していただくためのプログラムを使用するようになった。 その結果、参加者や土地の管理者たちが、巣箱掛けによる保護をする意味や活動理念を理解するのが容易になったように感じられている。

助成活動の写真	（写真の説明文をそれぞれ 30 字程度で記入） （天然木調査の様子） （学生による巣箱のメンテナンス） （巣箱の高さ変更作業） （天然木再生作業の経過観察）

（再整備作業の様子）

（巣材調整の様子）

（作業前と作業後写真）

（自動撮影機の取り付け写真）